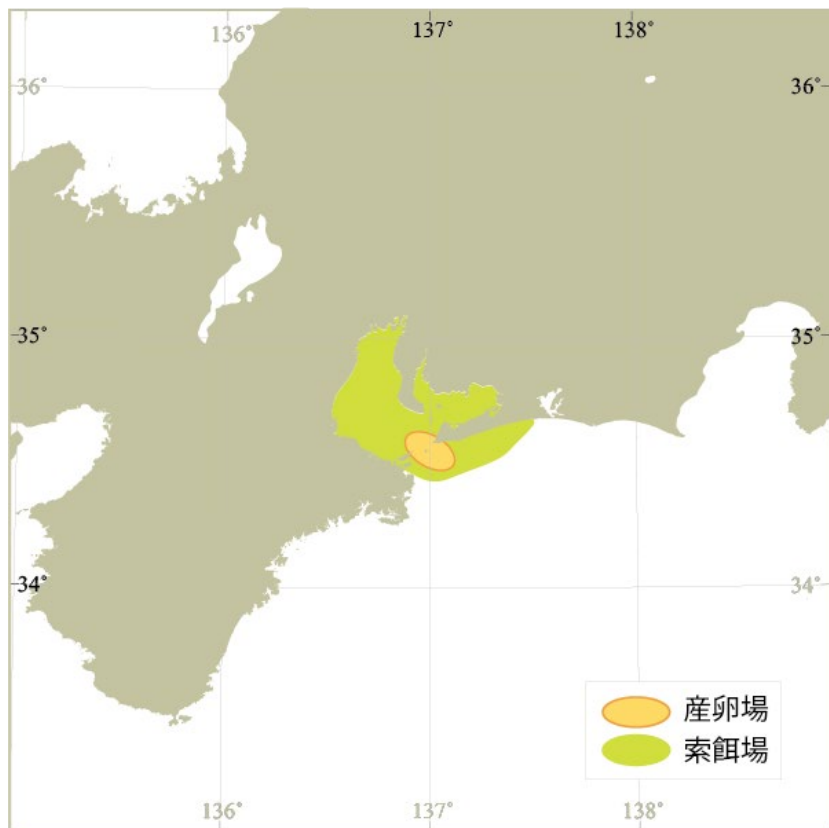




イカナゴ伊勢・三河湾系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

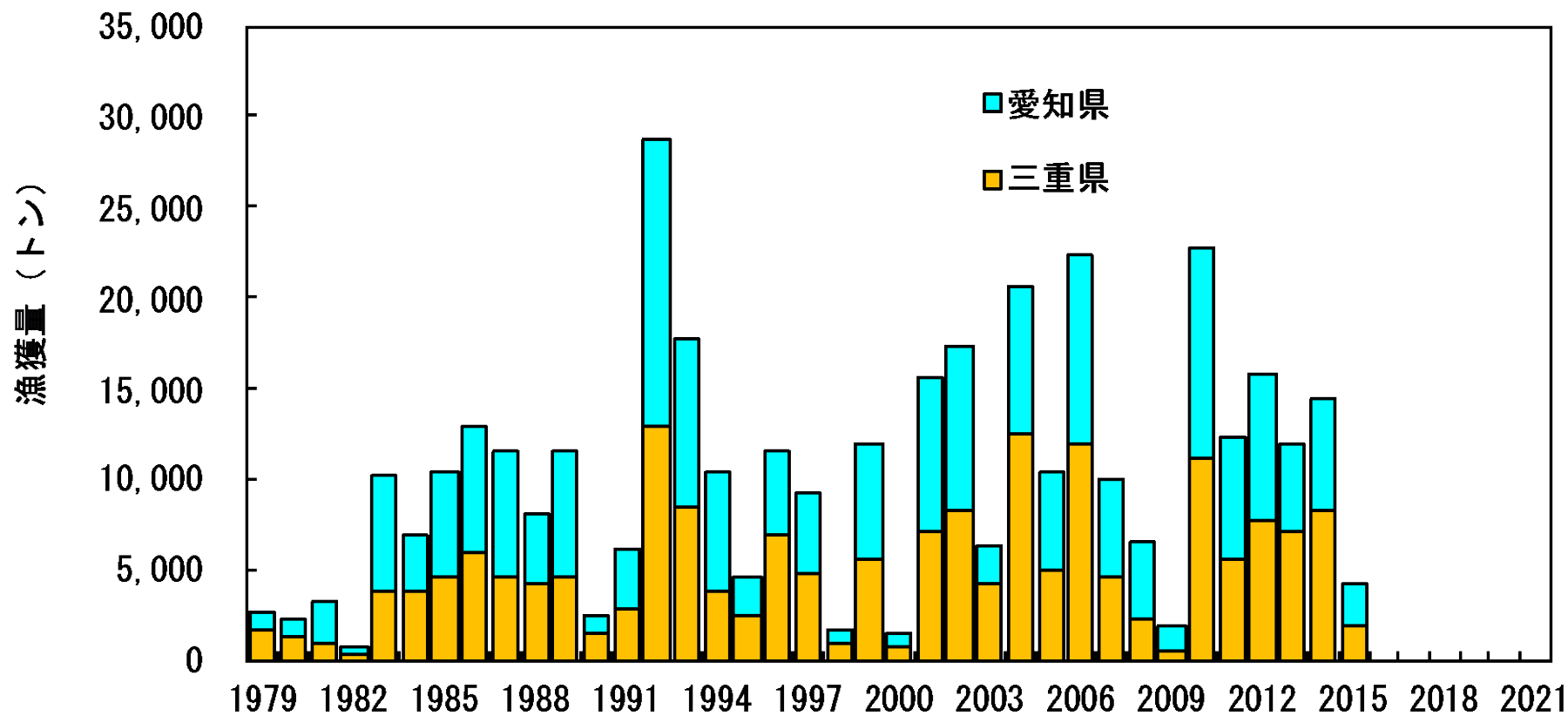


生物学的特性

- 寿命： 2-3歳
- 成熟開始年齢： 1歳
- 産卵期・産卵場： 12月～翌年1月、伊勢湾の湾口部付近から渥美外海の礫砂の海底
- 食性： 主に動物プランクトン(カイアシ類が主体、ヨコエビ類、ヤムシ類、アミ類)、伊勢湾では加えて植物プランクトン(珪藻類など)
- 捕食者： 仔稚魚期には多様な浮魚類やヤムシ類、未成魚および成魚期にはヒラメ等の底魚類

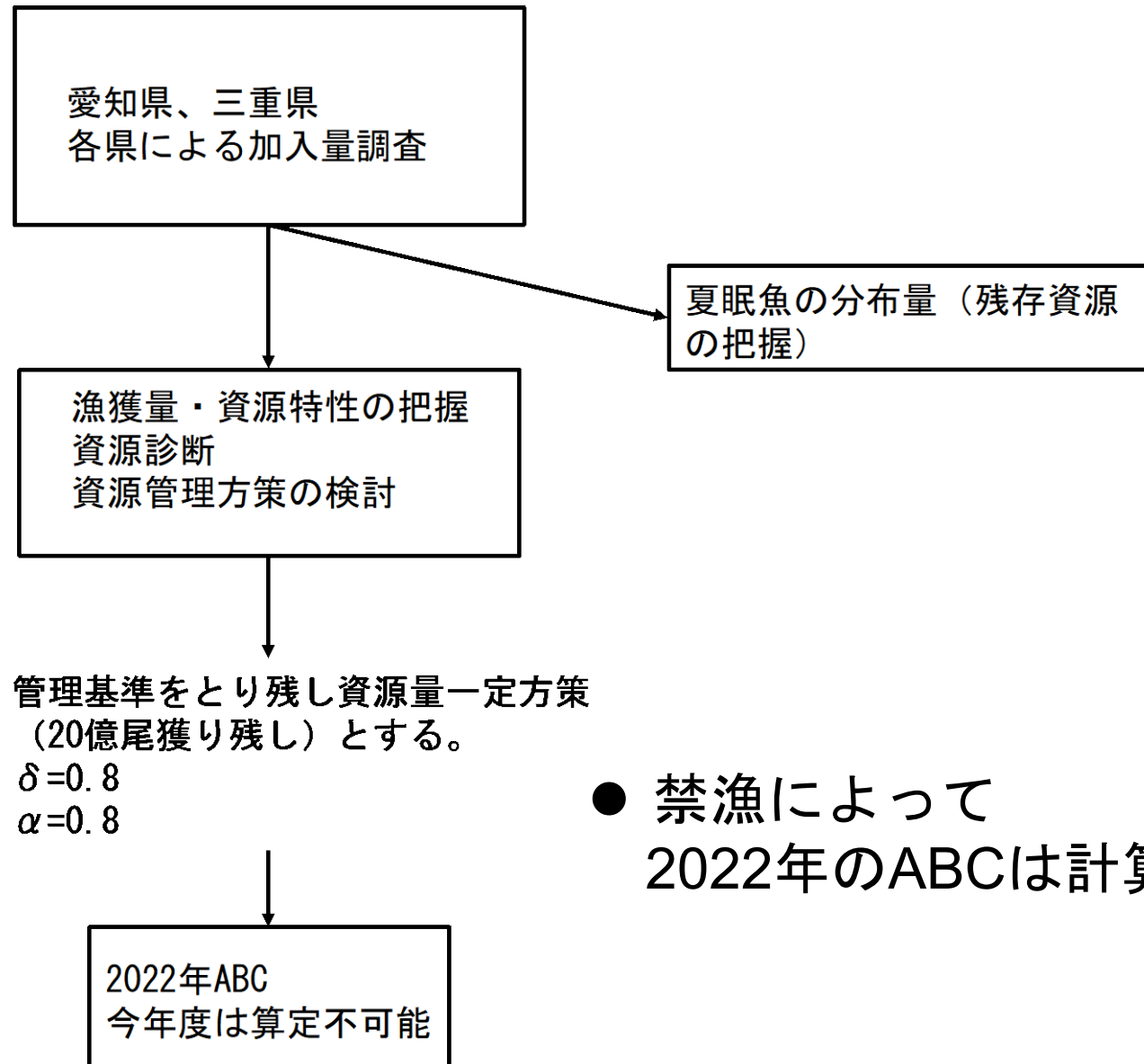
- ・ 漁獲対象は、稚魚（シラス：2月～3月）と幼魚（4月～5月）
- ・ 漁獲量の90%以上が、2月～3月の漁期開始後の約2週間で水揚げされる

漁獲の動向



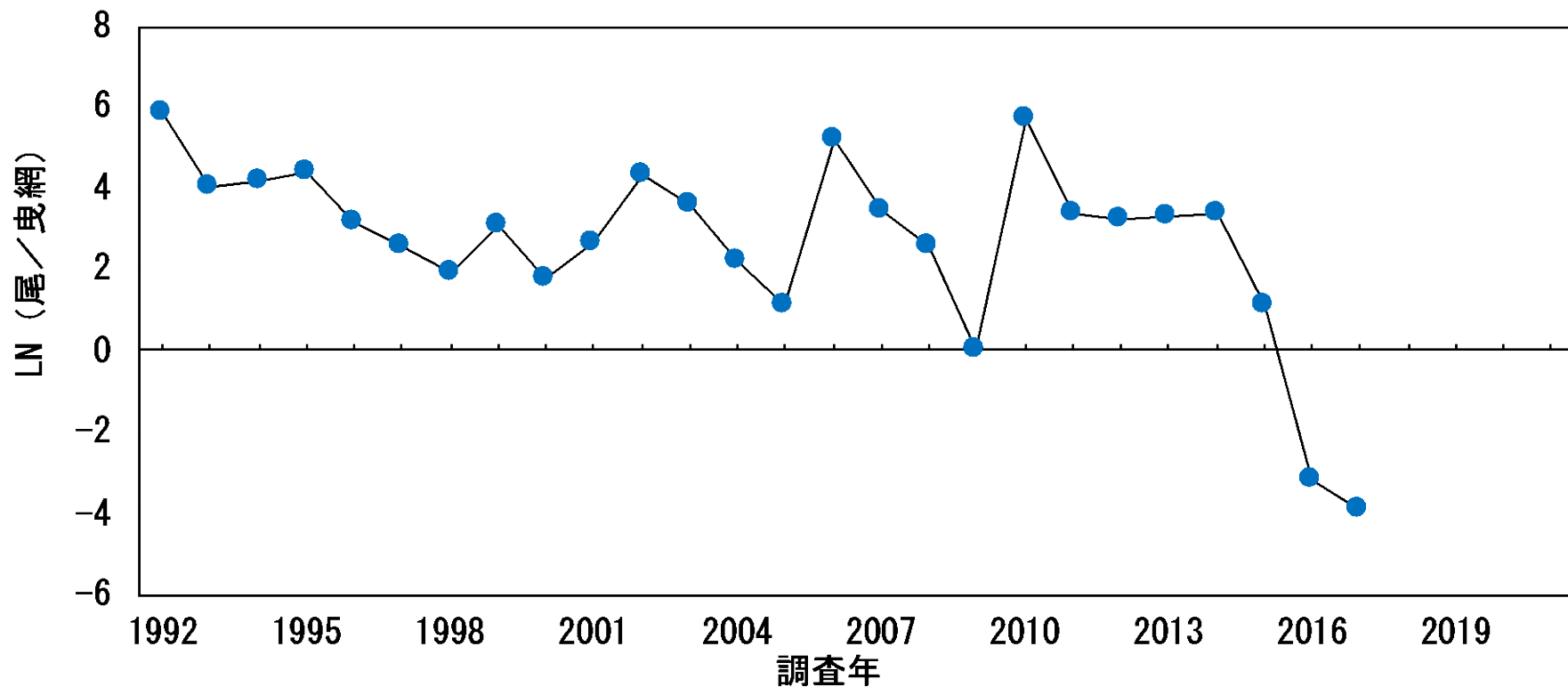
- 漁獲のあった年は船びき網によって漁獲されていた
- 2016～2021年は禁漁によって漁獲量は0トン

資源評価の流れ



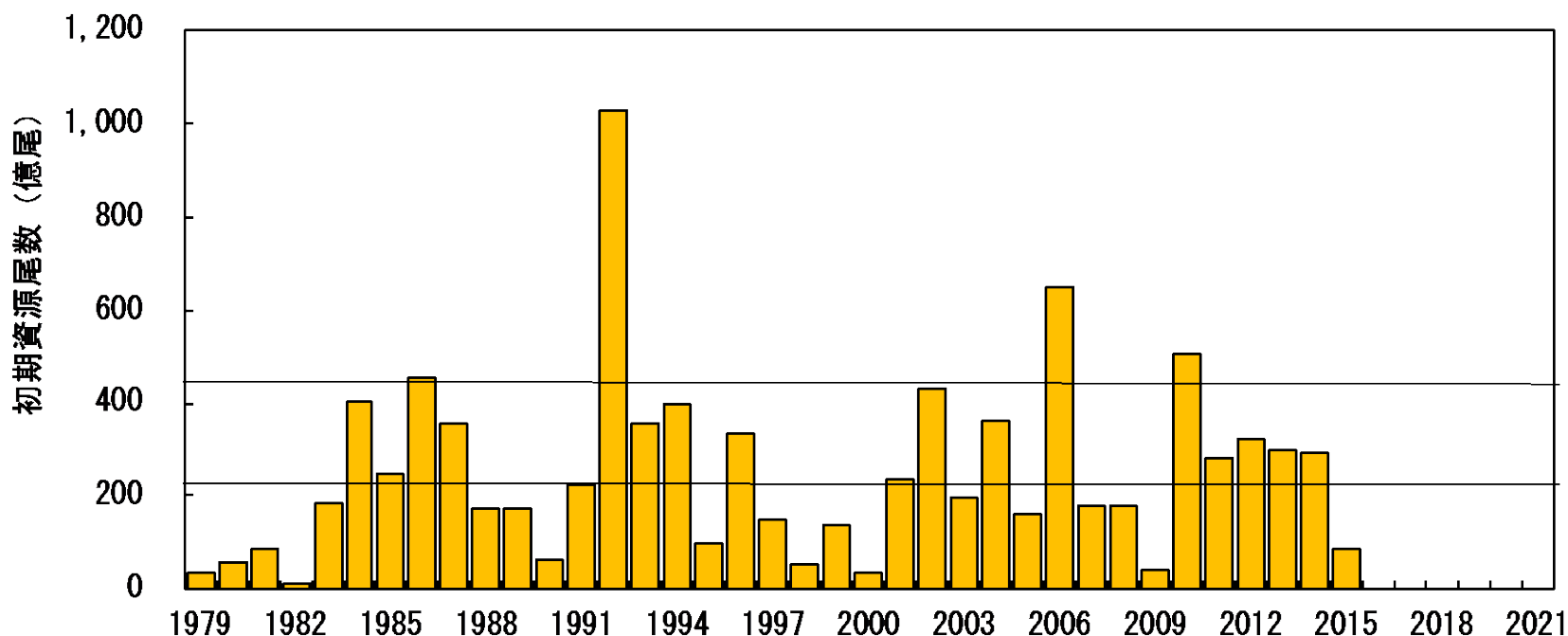
- 禁漁によって
2022年のABCは計算不可能

資源の動向①



- 加入量調査結果を用い、資源量指標値を算出し資源の水準と動向を判断
- 2015～2017年は減少傾向、 R_{2016} と R_{2017} はとり分けて低い
- 2018～2021年の加入量調査で仔稚魚は採集されず、計算不可能であり、水準は低位、動向は横ばい

資源の動向②



※水準の区分線は、突出して多かった1992年を除いた最大値と最小値を三等分し
低位－中位（226億尾）、高位－中位（439億尾）

- 加入資源尾数は2015年までDeLuryの方法で推定
- 14億尾(1982年)～1,028億尾(1992年)で70倍以上変動
- 2015年は89億尾の加入資源尾数→水準と動向は低位・減少
- 2016～2021年の加入資源尾数は推定不可能

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい
- 禁漁のため加入資源尾数は6年(2016~2021年)連続して推定不可能で、加えて、加入量調査結果で4年(2018~2021年)連続して仔稚魚が採集されなかった

2022年ABC

管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値
Bfishable	Target	—	—	—
	Limit	—	—	—

- 2022年ABCは算定不可能
- 親魚量20億尾以上をとり残す管理方策は維持していく必要がある